

平成30年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価〔4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する〕

	本年度の重点目標	具体的対策(手段)	職員			学校 評価 関係者	結果の考察・分析及び改善策等	学校評価関係者からの意見
			職員	保護者	地域			
豊かな 社会力 の育成	さまざまな体験活動を通して、感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を身に付ける。	① 道徳及び人権教育の充実	2	2	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの活動は朝の時間を中心に取組が定着した。JRCの活動精神をふまえ、学校や他の児童のために自分で考え行動する姿が日常で見られるようになってよ。自分の損得にとらわれずに相手を思いやる人権感覚を身に付けさせたい。 ・ あいさつは大きな声で元気よくできている。学校外でも適切なあいさつを意識できるようになったが、更に習慣化させたい。 ・ 読書については1月までの段階で個人への貸出数が合計659冊、一月平均66冊、児童1人が月9冊を借りる状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校以外での行動にも責任をもたせ、子どもの良い面を伸ばすためにも、地域の方々から指導をしていただくことは大切である。 ・ 学校外であいさつを、自分からはっきりと言う勇気を身に付けてほしい。 ・ 世の中の出来事に関心をもつためにも、子ども新聞などの新聞を読むようにしてほしい。 ・ 体験活動を通して、自主性をもたせ、更に子供たちに頑張る機会をお願いしたい。
		② 読書活動の推進	3	3	/	3		
		③ 基本的生活習慣やマナーの習得と実践	3	3	3	3		
		④ 核になる感動体験の実践	3	3	3	2		
		⑤ 地域行事への積極的参加	3	3	3	3		
授業力 向上と 学力向 上	授業の工夫を通して、児童一人一人の学習意欲を高め、授業力並びに学習の資質・能力を向上させる。	① 「分かった・できた」と実感できる授業の実践	3	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程の編成において標準時数より3年の算数科を10時間、5年生の社会科を5時間増やして実施した。また、校内研究の主題を「『わかった』『できた』が実感でき、主体的に学ぶ児童の育成」とし、児童の実態に合わせ学力を定着させるための指導工夫について実践的な研究を行った。 ・ 立腰指導をはじめとした基本的な学習習慣の徹底により、意識の高い学習活動を継続することができた。 ・ 学習内容の定着のためにも、家庭学習の充実を図る必要がある。 ・ 授業への地域人材の活用については、更に充実できるように工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数による授業の長所と短所については、先生方も十分理解して指導されていると感じるが、負けん気や競争心、お互いに磨き合う力を持たせるような工夫もぜひお願いしたい。 ・ 授業での指導が充実するように努力されていることが分かり、安心した。今後更に伸ばしてほしい。 ・ 算数に関して、数量を実生活での物や体の長さやたとえて覚えていくことも大事だと思う。 ・ 文章を最後まで読む力、書く力を伸ばしてほしい。 ・ 読書活動を通じて、学習の意欲や理解力の向上につなげてほしい。
		② 複式解消の工夫	3	3	3	3		
		③ 基本的学習習慣の徹底	3	3	3	3		
		④ 業間・放課後の活用	3	3	/	3		
		⑤ 家庭学習の充実	3	3	/	3		
		⑥ 地域人材の授業への活用	3	3	3	3		

健康・安全と体力向上	特色ある体力づくりの活動を充実するとともに健康・安全への意識を高め、児童一人一人の危険回避能力や命を大切にすることを育てる。	① 体力向上プランの完全実施	3	3	3	3	・体力向上プランの完全実施に向けて、業間の時間や体育の時間にサーキットトレーニングやストレッチを取り入れるなどの工夫を行い、体力テストの総合判定で、1年生を除く全員がポイントを上げることができた。昼休みには体育委員会が中心になり遊びの内容を決め、全員で活動し運動量を増やすようにした。	・基礎体力の部分で子どもの運動不足が原因と見られることが多い。授業以外の時間はできるだけ体を動かして遊んでほしい。歩くことも非常に少なくなった。遠足や日常生活での歩く体験をもっと増やすようにしてほしい。授業前の遊びなどの短い時間の積み重ねでも運動としては貴重である。 ・健康に関する取組を学校、家庭、地域で協力して進めましょう。 ・危険回避能力については、通学路の危険箇所確認だけでなく、不審者への対応や津波への対応など、将来どこにいても命を守ることできるような力を身に付けさせてほしいので、避難訓練に加えてほしい。 ・地域の防災訓練に積極的に参加し、学校だけでなく家庭においても災害時の避難経路等を常に認識して欲しい。
		② 危険予知能力や危険回避能力の育成	2	2	3	2	・安全面に関して消防団や警察署などの関係機関と連携して訓練を行うことができたが、日常の安全意識、危険回避能力については更に高めるが必要である。災害以外の日常生活における危険にも目を向けた指導も工夫していきたい。	
		③ 地域との協働による防災訓練の実施	3	2	3	3		
		④ 関係機関との連携	3	3	3	3		
望ましい食習慣の育成	学校と家庭・地域との連携を通して、食育に対する意識を高め、児童一人一人が望ましい食習慣を身に付ける。	① 食に関する指導の充実	3	3	3	2	・低学年も給食の準備や時間内に食べることが以前より手際よくできるようになった。委員会の活動によって食に関する情報を児童に知らせることもできた。米作り、芋作りだけでなく野菜を育てる体験も行うことができた。	・食育については学校でも色々な工夫をされているが、学校で学んだ、知ったことが家庭で継続されたり、生かされたりすることが必要と感じる。食生活改善推進委員を有効活用してほしい。 ・野菜作りの経験は、子どもたちにとっても食への意識を高める上で有効と考える。自然の堆肥を十分に活用し、生育の様子を観察し、育てた野菜を口にすると経験も大切にしてほしい。 ・アレルギーに対する啓発をお願いしたい。
		② 農業体験の実施	3	3	3	3	・日常の食事について食べる時のマナーを身に付けさせたい。関連する情報を家庭や地域に更に発信し啓発していく必要がある。	
		③ 地産地消の推進	2	3	3	3	・地域の方々の経験に裏打ちされた知識や技術を児童にも伝える活動も充実させたい。	
		④ 地域人材の活用	3	3	3	3		

次年度の取組

- 全教育活動を通して道徳教育を充実させる中で、自己肯定感と同時に相手を理解し尊重する人間性を更に培っていく。
- 児童の特性については、学校内の理解だけではなく地域の方々にも理解と協力がいただけるよう、地域と学校とのつながりを充実させる。
- 「家読」推進のために、参観日などを通して、読み聞かせや親子読書の有用性などを伝えるとともに、保護者への読書の働きかけを進めるなど実践化を図る。
- 神楽や臼太鼓踊りについては、ふるさと学習の一環として取り組むために、保存会の方々の協力を得ながら総合的な学習の時間を中心に継続して取り組む。
- 授業力向上のために、学校における実践的研修を計画的に進める。
- 複式解消のための取組を継続して進める。放課後の補充指導「ASSUタイム」は学級担任と連携しながら内容を工夫する。
- 家庭学習の習慣化、課題の与え方、家庭での学習意欲向上を図るための手立てについて全職員で共通理解し取り組む。
- 地域の人的・物的財産に関する情報を積極的に収集し、地域人材を活用しながら、直接体験をさせる場を充実させる。
- 体力向上については教科体育の充実だけではなく、日常的な運動の積み重ねを大切に「一校一運動」を進めていく。
- 学校保健委員会や親子給食等の機会を活用したり、個々の家庭との連携を図ったりしながら、食についての意識の向上を図る。
- 地域の消防団や関係機関と連携した防災・避難訓練を充実させ、危険予知能力や危険回避能力を身に付けさせる。
- 津波や不審者への対応についての意識を高めるような取組も検討する。
- 農業体験については米作りのほか、野菜作りなどについても取り組んでいきたい。